

# ☆☆☆ Library Eye 2022 ☆☆☆

第27号 2022年6月1日(水)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



## 【 成人年齢が 18 歳に引き下げられました! 】

今年度4月1日より、約140年ぶりに**成人年齢が、現行の20歳から18歳に引き下げ**られました。今回の民法改正で、18歳を迎えた人々にとって様々なことが変わり、多くのことを自分で決めて実行できるようになりました。例えば、携帯電話の契約や解約、不動産の賃貸契約、クレジットカードの作成やローンを組むこともできます。他にも、親権に服さないため、結婚や居住地の選択、進学や退学なども、親の許可を得ることなくできます。多くのことが親の許可を得ることなくできることで、正しい知識が乏しいと、トラブルに巻き込まれるケースが増えると考えられます。『**大人になってどういうこと?**』(神内聡著)は18歳成人の入門書です。子ども達に向けて簡単でわかりやすい内容ですが、親や先生向けのQ&Aもあり、大人にとっても、改めて「**大人**」を理解できる内容となっています。



また、今年度からは高校の家庭科の授業で、**金融教育**が必修となり、お金に関して積極的に学ぶ場を、学校でも設けることになりました。将来の自分自身の生活に役立てるために、若い時から**使う・貯める・備える・借りる・増やす**など、**お金に関する知識**を増やし、**金融リテラシー**を身につけることは、非常に重要だと考えられています。成人年齢が引き下がり、お金のまつわる様々なことができるようになるなかで、主体的に責任ある行動ができる大人になってほしいと思います。

図書館では、「**18歳成人・大人とは?**」や「**お金・経済**」に関する本の常設展示を始めました。図・イラスト・マンガなどを組み込んだものや、ストーリー仕立てのものなど、わかりやすく読みやすい本も数多くあります。ぜひ、生徒の皆さんには、自分の将来のためにも興味を持って手に取ってもらえると嬉しいです。また、ご家庭でも、話題にしてみるのもよいのではないのでしょうか? (司書)

## 【 街の本屋さんも 頑張っています! 】

私たち司書は、生徒の皆さんにふさわしい本を選ぶために、普段から様々な情報を参考にしています。その中から今回、**東京都書店商業組合**の取り組みを紹介します。

先日、同組合がYouTubeチャンネルを開設したという記事が、朝日新聞で紹介されていました。チャンネル名は「**東京の本屋さん〜街に本屋があるということ〜**」で、店主による書店紹介の動画が約70と、今村翔吾さんの直木賞受賞インタビューや、池上彰さんが語る「書店とは」など、著者・著名人・インフルエンサーが出演する企画や動画が多数あり、本や書店の素晴らしさを熱く紹介しています。書店それぞれにこだわりがあり、その取り組みが強みとなり、地域に根強く息づいていることがわかります。本を大切に思い、良書を一人でも多くの人に届けたい心は書店も図書館も同じだと感じました。

コンテンツの中から心に残ったコメントをいくつか。「どんな本を読めばいいか、とよく聞かれるが、感性は千差万別。時間がある時に本棚を端から端までじっくり眺めると、あなたの人生を決める本に出逢える」「皆と同じものを読んでいても差別化はできない」「見えないものこそ大事、行間まで読む速度でじっくり活字の裏側まで味わう」「知識の運用ができてはじめて教養となる」「書店(図書館)は「知」のインフラ」…

ご興味がありましたらアクセスしてみてください(司書)→<https://www.youtube.com/c/Tokyo-shoten>

## 【あなたの脳はハッキングされている?】

教育大国スウェーデンを震撼とさせた『**スマホ脳**』の目次には、「**スマホ**は私たちの最新のドラッグ」「バカになっていく子供たち」といった恐ろしい文言が並んでいます。が、**最も衝撃的なのは「家では、子供たちがデジタル機器を使う時間を制限している」「iPadはそばに置くことすらしない」というスティーブ・ジョブズの言葉です。ビル・ゲイツにいたっては「子供には14歳になるまでスマホを持たせなかった」**そうです。どうしてIT企業のトップたちは、**スマホ**を子どもに与えないのでしょうか。**スマホ**を購入するだけの経済的余裕がなかった、とでも言うのでしょうか?

**スマホ**と脳科学研究の第一人者である川島隆太博士は「**スマホの使用時間が長い生徒は、大脳に発達の遅れが見られる**」(『**スマホが学力を破壊する**』)と警告しています。この異常が一時的なものなのか、それとも認知症の初期症状なのか、現在、研究が進められている段階です。

**スマホやiPadからもたらされる膨大な情報量に処理が追いつかず脳に血流が減った結果、認知機能や記憶力・学習意欲・好奇心の低下を招くのが、いわゆる「オーバーフロー脳(脳過労)」**です。こうした情報の洪水によって、脳は「ゴミ屋敷」と化すと同時に、画面から発せられるブルーライトによって**視力低下や睡眠障害**を招くことも研究からわかっています。また、テレビやパソコンを見ながら**スマホ**を操作するとか、**iPad**の画面上で複数のアプリを同時並行で使うといったマルチタスクは脳が苦手とすることですので、**脳にストレスが溜まって感情をコントロールできなくなる**、といった弊害も生じます。

**明星に通う生徒の6割以上は1日にスマホを2時間以上も使っている**ことが、昨年、実施した図書館アンケートで明らかになりましたが、これに授業での使用時間を加えると、すでに脳科学者がリミットとしている1日1時間を大幅に超えることになります。

デジタルデバイスを活用するためにも、その負の側面を知っておくことも必要です。(川辺)

## 【あなたのカエルは見つかりましたか?】

「カエルがいる」

岡山県にある大原美術館でクロード・モネの『**睡蓮**』を見て、4歳の男の子がこう言いました。



現在、大学入試では記述式問題の導入を図ったり、教育現場でも探究型学習を推進したりと、21世紀型スキルを育てる方向で動いています。教育のデジタル化も急ピッチで進んでいますが、**iPad**は、あくまでも補助的な役割を担う程度に抑えておかないと、人間の仕事を奪おうと虎視眈々と狙っている**AI**の、まさに「思うツボ」でしょう。

ネットから得た知識・情報は断片的な部品にすぎず、これらを体系化・組織化し、教養まで高めていくためには読書が必要不可欠です。そもそも現在進められている教育改革は、**AI**に負けないための人間力(読解力・好奇心)を培うことが目的なのですから。この点について、国立情報学研究所の**新井紀子**教授は「文章を読めないビジネスマンが会社を潰すこともある」と警鐘を鳴らしています。

**明星の中学生の1割、高校生の5割の生徒は1日の読書時間が0分です。**

**21世紀型スキルを育てるためには、スマホやiPadを使う時間よりも、本を読む時間やアートを鑑賞する機会を与えることこそ、大切なのではないのでしょうか。**

さて、**モネ**の作品群である『**睡蓮**』には、カエルが描かれた絵は一枚もありません。

その場にいた学芸員が思わず「えっ、どこにいるの?」と聞き返したところ、その男の子はこう答えたそうです。

「いま、水にもぐってる」

この男の子の前にあるのは一枚の平面的な絵ではなく、**睡蓮**が咲く生命感あふれる池だったので。

さて、あなたのカエルは見つかりましたか? (川辺)

